

# 東京旭川会 会報



第9号 昭和62年(1987)3月25日  
 発行 東京旭川会  
 東京都新宿区西新宿7-4-3 升本ビル  
 東京美装興業株式会社内  
 TEL. (03)363-2721  
 編集 東京旭川会会報編集委員会



故平岡会長夫人(右)と故谷副会長夫人へ感謝の水墨画が贈られた。

## 第十回総会・懇親会開かれる

### 新会長に八木祐四郎氏選任

第十回東京旭川会の総会および懇親会は昭和六十一年十一月二十五日、東京都新宿区の京王プラザホテルで盛大に開催された。この日午後二時頃から世話役の役員ら二十余人が集合、一切の準備を進めるうち、同五時過ぎから次々と出席者が姿を見せ総会出席者は二百九十五人に達した。

午後五時四十五分、本間敏弘常任幹事の司会で開会。冒頭に去る八月六日死去された故平岡敏男会長はじめ物故者の霊に黙禱して、ご冥福を祈った。

ついで御手洗正夫副会長が議長となつて議事に入った。第一号、第二号議案の昭和六十年度事業報告、収

支決算報告、六十一年度事業計画と予算(別掲参照)を田村昌士幹事長が読み上げ、竹原茂雄監事の監査報告が行なわれ満場一致で承認された。続いて第三号議案の会長選任の件は八木祐四郎副会長の選任が承認され新たに就任した八木会長から「事務局を預かっていることもあり旭川のご事は知っているつもり、非才ですが全力を尽くして頑張りたい」との挨拶があつて総会はとどこおりなく終了した。

### 坂東市長の姿も

懇親会は木原早苗さん(元日本放送アナウンサー)の司会で、吉田敏明副会長から「旭川から当選したば

## 郷土料理がいつぱい

かりの坂東市長ほか議長、商工会議所会頭らが出席し、亡き平岡氏も喜んでおられることと思う」と開会挨拶があり、その後会長、副会長が全員壇上に並び八木新会長から「中央におけるパイ役と旭川への冬季オリンピック誘致にも力を入れて行きたいので会員の皆様にも心からのご協力を願いたい。旭川会も創立十周年に会員数七百五十人、本日の出席者も三百人を超える盛況となつた。各役員も本日の記念ある会のために実行委員会を七、八回会合し盛大に開会出来た努力に感謝します」と挨拶があつた。本年も旭川から上京したミス旭川稲田美智子さん、向峰直子さんから八木祐四郎新会長、御手洗正夫副会長に花束贈呈した。

続いて坂東旭川市長から「旭川の冬の間の降雪量を加算すると七メートルに達し、この除雪費用に約十億円を要する。先輩の皆さんの住んでいた当時とは住宅事情も異なり、冬も快適な生活を送っている。また旭川くらしい地震の少ない所は無く安心して生活出来る。今や人口も三十六万五千人で全国では二十八番目、本州なら県庁所在地の規模である。素晴らしい人物も出ており町づくり懸命に努力している。平岡さんの葬儀には多数の名士の中に市長他の郷土関係者の席も設けられていた。中曾根首相の弔問もあり、旭川出身の誇るべき偉大な人と思う」と挨拶。

この後、須藤智恵子幹事から坂東市長へ花束が贈呈された。来賓紹介の後、第十回総会を記念して男山、合同酒造、高砂酒造、東亜国内航空、

十勝、雪印乳業の各企業、旭川バーサースキー大会実行委員会などの各協賛会社代表者の紹介の後、感謝状贈呈があり、さらに故平岡会長夫人美恵子さん、故谷副会長夫人トヨ子さんに記念品として田辺牧雲画伯(旭中卒)の水墨画「大雪連峰」が贈られた。その後、舞台正面に郷土の銘酒、男山、国士無双、富貴のこもかぶり一斗樽が並び、男山社長山崎与吉、旭川市議会議長小沢仁良、高砂酒造社長小松山亨、東京旭川会会長八木祐四郎、合同酒精社長野口正二郎、旭川市長坂東徹の各氏の手で勢い良く鏡割りが行なわれた。乾盃の音頭は太田剛顧問、続いて賑やかな神田囃子が始まり、和やかなムードに一変し各テーブルを囲んで盛沢山の料理のほか郷土のカホチャ、ゴシヨイモにバターが添えられ、郷土の地酒に酔いも回わって話が弾んだ。この間に地元選出の国會議員、安井吉典、上草義輝、五十嵐広三、元国會議員の村上茂利の各氏が壇上で紹介された。

お楽しみ抽せん会は武田陽子常任幹事の進行でミス旭川両嬢の手で抽せん、本年はラッキーカードも加わり、賞品も東亜国内航空往復並びに宿泊無料券三枚など数多くの豪華な品に会場が盛り上がった。

会場の即売コーナーでは旭川地方卸売市場提供の数の子、新巻、いくら、昆布などの即売会が行なわれ、総売上は五十九万八千円に上り、この収益は会に納入された。

(参加者のお名前および当日の会場風景は4、5頁に)

# さようなら平岡さん

平岡会長の葬儀は毎日新聞社葬として八月二十七日、東京の青山葬儀所でしめやかに行われ、政、財、文化、芸術、スポーツなど各界から三千人の多数が参列した。



故郷旭川市から坂東徹市長、東京旭川会を代表して御手洗正夫、吉田敏明、矢野正康、大城栄子、牧田逸子、田村昌士、落合隆明、関口和子、武田陽子、桑本平八氏らが参列して霊安かれと祈った。

その平岡さんが手術のため入院なさったのは昭和六十年の十一月七日のこと、幸い経過良好で十二月二十三日に退院された。「な、かまど」の編集陣である私どもは、恒例の原稿はいただけないとあきらめていたところ、退院して間もなく、いつものように、特製の原稿用紙に随筆を寄せられた。これが本紙前号の「十年の積みかさね」である。通常、皆さんから寄せられた原稿はそのまま赤字を入れて出版社へまわすのだが、この「十年の積みかさね」は、ひよっとしたら遺稿になるのでないか、という新聞記者の勘から、コピーをとって、生(なまき)原稿はそのまま保存しておいた。こういうカンはいやなものであるが、不幸にも当ってしまった。これがカットにある「平岡原稿」である。

まだ毎日新聞社やご遺族の方に伺っていないが、多分、平岡さんが書き残した最期の原稿であったろうと思う。平岡さんは東京旭川会に集う郷里の人々に会長として細かい気づかいをみせ、何よりも故郷旭川を愛したジャーナリストであった。

ていたろうが、死ぬるまで新聞記者であったという感が深かった。最期に記者の胸をよぎったのは、吹雪の街角であったのか、薫風若葉の山なみであったか。(伊藤一男記)

## 毎日新聞も悲しみの記事

『毎日新聞』(8月27日付朝刊)は、平岡会長の葬儀をくわしく伝えた。山内大介同社長は生前平岡さんが好んだ「決断と忍耐は最も高貴な性質である」との言葉を引いて、ありし日を偲んだ。また中山素平日本興業銀行特別顧問は「常に正論を持って大道を歩くといった男子としても新聞人としてもまた経営者としても堂々たる人生でした」と偉業をたたえた。さらに広岡知男朝日新聞元社長は「誠実で人を裏切ることができない人でした」と弔辞を捧げた。

## ●追悼の言葉

## たいじんの風格今やなし

矢野正康

会長の平岡敏男さんは亡くなられる前、三度も入退院を繰り返された。最初と二度目の時、知らせをうけて私も二度お見舞いに伺った。訃報に接した時、やはりいけなかったのかと思った。

私が平岡さんを存じ上げたのは東京旭川会を通じてだからそう長くはないが、私どもの東京旭川会としても、また故郷旭川としても惜しい人物を失ったと哀惜にたえない。

いつであったか、旭川からやってきたQさんを案内して毎日新聞社に平岡さんを訪れたことがあった。談論風、歯に衣を着さないタイプのQさんは何やら平岡さんにしきりと議論を吹きかける風であった。いつ

また、北海道倶楽部の会紙「北海道倶楽部」の太田剛同倶楽部会長は「顧みて悔いのない一生、君もって冥すべしと言いたいところだが、同時代を生きてきた私の心情を卒直に言えばあと十年、彼にハッピー・リタイヤメントとでもいって平穩な余生をもたせてやりたかった」と回想した。旭川の生んだ偉大なジャーナリストの霊安かれ。

## 追想録刊行会発足

平岡敏男氏の追想録の出版計画が進められている。東京都千代田区一ツ橋一―一―、毎日新聞社内には設けられた「平岡敏男追想録刊行会」が中心となって企画されており、東京旭川会からも常任幹事に発起人承認方の要請があった。

てみれば表敬訪問のつもりでいた私は、Qさんの発言に戸惑ったが、平岡さんは終始にこやかに対応して正に大人(たいじん)の風格だった。私はQさんの袖を引くようにして退出したのだが、平岡さんはわざわざエレベーターのところまで見送って下さった。大新聞の会長さんの、この丁寧な態度に私は出来たお人柄だと思った。少しも高ぶったところがない。いつてみれば野人タイプの平岡さんはまことに魅力あふれた方だった。酒器を手を悠然と口に運ぶ姿、いまや亡し。かけがえのない方を失って残念でならない。

(東京旭川会副会長)

ななかまど 用



東京旭川会が結成されて十年、初代会長として会の発展、充実に尽力

# 十年の灯を輝かす

八木 祐四郎

二代目会長に就任して

力下さった平岡敏男氏が、十周年の行事を目前にご他界されたことは誠に残念でございます。ここに改めて深甚なる感謝と、心からなるご冥福をお祈り申し上げます。  
第十回総会において、諸先輩や各界でご活躍の会員各位のおられるなかで、不肖私に第二代会長のご指名をいただきました。

円満な人格と卓越した識見の平岡前会長の後を引継ぐのは浅学非才の私にとって荷が重すぎることではありますが、御手洗、吉田両副会長の励ましや矢野副会長はじめ幹事の方々の力強いご協力のお言葉を頂き、平岡前会長の残された当会の十年の灯を更に大きく明るい灯にして、有意義なふるさととなるよう皆様のお力を借りながら努力いたしたいと思っております。  
東京旭川会は、ご承知の如く旭川とその周辺をふるさととする人々や

No. ①

はないのぞ、すこしひげが、かしたこともあつた。  
 無の配利はまことにフエアといへべきかと、師  
 十一月七日、旭川会総会、昨日日本医大付属  
 か一病後入院、手術、いまを手術し  
 てもらった。経過良好といふこと、十二月二十二  
 日、退院、お大事に、たまたまその後、病子に必ずしも

平岡用 箋

本紙 絶筆原稿

東京旭川会の会長というより、北の都・旭川が世に送った毎日新聞記者で、長い間、社長と会長を勤めた平岡敏男さんが絶筆原稿を本紙『ななかまど』に残していった。毎号、平岡さんは『な、かまど』のために随筆を寄稿して下さっていた。  
二百字詰めの特製原稿用紙に万年筆で文字通りさらさらと書いた。小説作家の文字ではなく、やはり新聞記者のそれだった。旭川出身の新聞記者で著名なのは、朝日新聞記者でNHKの会長になった前田義徳さんがいる。このお二人はジャーナリストとして傑出した人物で、はるかあとから歩いていく私ども無名の新聞記者にとって、何かまぶしいような存在だった。  
文化的伝統のない北の都市からこゝうした著名な新聞記者が二人も生まれたのが、きわめて興味ある現象と考えたのは私ばかりでなかったろう。「ペンの人」平岡さんは『な、かまど』に毎号せつせと万年筆を走らせてくれたので、とくに印象に残った。

## 平岡さん追慕

小池 榮 壽

東京旭川会総会は、平岡さんにお逢い出来る年一回の機会です。私は毎年楽しみにしていた。ところが六十一年の総会は私の体調が思わしくないので残念ながら休んでしまった。  
『豊談』の十月号に私の詩歌集「喜壽」と随筆集「雑草園」の紹介を平岡さんが書いて下さったので、お礼状を差上げたが、そのご病気のことは少しも知らないでいた。  
会報「な、かまど」の八号が来て、初めて平岡さんが、あの総会当日入院されたことを知って驚き、早速お見舞のハガキを書いたのであった。  
今、私の手許に六十二年四月十八日付の平岡さんのお便りがある。

(前略) 前後半年間に三回手術をしたので、体力の損耗著しく、一週間前に退院しましたが、もっぱら体力の回復につとめております。年令のハンディがあるので、若い時のようにまいりません。しかし、ここまで切りぬけてきたのだから、慎重にがんばるつもりです。(後略)  
且つて私は腎臓摘出手術を受けた経験があるので、今後の注意をいろいろ書いて差上げたが、あの平岡さんが「慎重に」がんばるといわれる位だから元気になられ、今年の総会にはまた歓談出来ると思っていた。そこへ突如各新聞は平岡さんの訃を報じ私を愕然とさせた。

平岡さんは旭中の同窓ではあるが、親しくお話をする様になったのは東京旭川会発足以後の短い期間であつたけれど、平岡さんの全人格は完全に私を魅了し、最も敬服する畏友の一人であつた。私はただ呆然としてわが老残を嘆くばかりである。

# 総会 お互いの健康と発展を祈って!



写真説明＝1. 協力企業代表に感謝状が八木新会長から贈られた。2. ミス旭川による抽せん会。3. 坂東旭川市長から故郷の報告。4. 懇親会でカンパイノ

## 第10回総会、懇親会出席者

▽来賓及随行 旭川市長坂東徹、同助役新出実、同秘書課長松浦常雄、同企業立地室長松山輝雄、同々主査窪田勉、旭川市議会議長小沢仁良、同前議長小柳勝人、同係長藤田守也、旭川商工会議所会頭小椋山亨、同副会頭河内一二、同常務理事柳谷宏、同総務課長水島隆、旭川観光協会会長金森耕造、ミス旭川稲田美智子、向峰直子、旭川国際バーサースキ大会実行委員長遠藤一成、北海道倶楽部会長太田剛、同加藤和加子、東京夕張会事務局長服部崇、旭川ターミナルビル支配人稲葉篤志、男山社長山崎与吉、合同酒精社長長野口正二郎、高砂酒造社長小椋山亨、東亜国内航空東京支店長広瀬俊仁、同旅客販売グループ課長芦沢吉朗、十勝社長大浦二郎、サッポロビール営業推進部副部長島雄一、毎日新聞社秘書室長久富勝次、雪印乳業総務部長付竹本徳夫、

(35名)

衆議院議員五十嵐広三、同上草義輝、川田正則(代)、安井吉典、故平岡前会長夫人平岡美恵子、故谷前副会長夫人谷トヨ子、同伴小林悦子  
▽会員 穴口重郎、有末精三、青野茂、荒品澄子、青木平三郎、有地家民、芦田貫一、朝倉良三、朝倉洋子、赤松綾子、足立景子、伊藤英子、井川正、石川陵一、石川ツル、石倉末松、石橋和子、伊集院実、磯部郁子、岩村久子、市田勝一、伊藤一男、石上正博、石川惇一、泉岡三津子、井上克己、五十川聰子、磯辺啓三、氏家一衛、梅原音二、植田キヨ、薄誠次、植木宏昌、蝦名禮子、折登建憲、大和田和宏、大久保藤次郎、折登昭三、大村巖、大城栄子、大野武夫、尾上一郎、尾崎清亮、大室惣一郎、奥三男、岡和田君子、奥野寛一、落原朋、大久保一衛、岡田直子、大沢輝子、荻野京子、沖野圭子、金

井清子、勝又好子、河村尚之、亀井歎一、片貝喜美枝、加藤和俊、金津良三、加藤竹紫、片貝義雄、川田正則(代)、笠原貞夫、笠原ゆり子、笠木真知、金子登、加藤辰雄、北村秀清、木原俊、木野与子、北山博子、菊地拓、工藤八重子、工藤義男、工藤正晴、黒崎弘、桑本平八、神代秋夫、小林正一、小島猛夫、小沢敏男、小林典司、小松山俊介、小西栄一、小要重吉、鴻上修一、小松光政、後藤正士、古瀬猛男、小沼敦、齊藤勝男、坂上博二、佐々木雄一、榊原潔、榊原春子、佐々木富幸、佐々木憲一、齊藤寿子、笹生澄子、勝田正之、島田嘉明、島田実、島田瑞子、茂川トヨ、島名栄子、島礼弘、鈴木吉之、須貝彝彦、鈴木豊子、須藤正一、杉山俊朗、鈴木忠雄、須藤智恵子、杉松秀樹、鈴木和男、杉本與作、鈴木与之助、鈴木玲子、関口緑、世良保、関谷越夫、関口和子、世良節子、関根智恵子、高橋芳子、武田陽子、竹原茂雄、田村昌士、種田小三郎、滝幸子、高橋豊躬、高橋国二、田中国夫、高橋正夫、竹内薫、高木加代子、高瀬ミサ子、高橋文子、田辺勝、土屋初代、塚田久美子、都築秋子、出羽倭子、土井麻智子、土肥ちい子、冨塚喜一、中村敏江、中山敏子、中村虎男、中村正人、中村峯子、中本和子、中島信、中井喜代之、長田孝雄、中村園子、中川千代、中井律子、中野虎雄、長坂広光、中山豊昭、中島美恵子、西田育子、丹羽敏昭、新国園枝、布目カヨ、野瀬ミツエ、原口修一、花輪元治、長谷川健一、橋本博治、橋本裕子、橋本直久、坂東宗光、羽島利雄、長谷川明子、芳賀照雄、坂東幸子、坂東勝利、早川清一、原庸子、原公朗、早川恵美子、林輝一、林恵子、引地康博、広野貴之、広瀬芳一、平野雅甫、福原博子、二川武、二川ちえ子、船越拓、船越史子、船越美香、福田一、深沢幸子、古島誠一、福居秀一、福田淑子、藤元義光、福本小太郎、船木トヨ、堀川和延、本多誠、星野恭子、堀江秀明、細谷弘





ニュース提供：  
旭川市東京事務所

冬季オリンピックを旭川市でという運動が「旭川冬季オリンピック招致期成会づくりのための準備委員会」が中心となり進められ、昨年十二月二十五日、旭川市は正式に立候補しました。

すでに立候補の意思を表明している長野市、山形市、盛岡市などの国内勢をはじめ、外国都市の立候補も予定され、前途多難な招致レースが予想されます。

### 大雪アリーナ完成

市民待望の多目的施設、旭川大雪アリーナがオープンしました。三浦綾子の小説「氷点」の舞台として知られている見本林の近く敷地面積約二万一千平方メートル。収容人

## 冬のオリンピックをわが街に！



1986年8月3日、旭川ミュージック・フェスティバル実行委員会による第1回「カムイ・ライブ・ジャム'86 イン・アサヒカワ」がカムイスキーリンクスで開かれた。炎天下8000人の若い聴衆が10時間にわたってサウンドを楽しんだ。

員約九千人、建設費二十五億円を投じた巨大なカマボコ型の施設です。長さ六十メートル、幅三十メートルのスポーツフロアを中心に、冬季のスケートやアイスホッケーはもとより、国際級のスポーツ大会、見本市、学術集会、コンサートなど大きな各種イベントに幅広く利用できます。



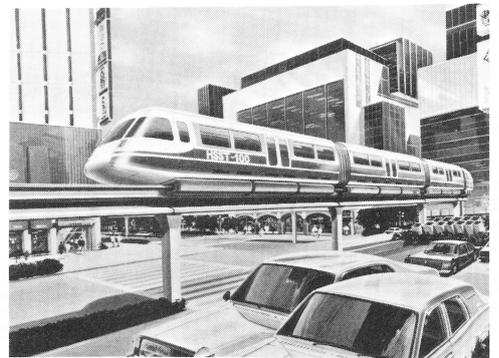
アリーナのスケート・リンクは人気の的

### さわやかマラソン

たくましい心と体を育てようと、「第1回旭川市小・中学生さわやかマラソン大会」が、昨年六月十四日、初夏を思わせる日差しの中で開かれました。近文公園陸上競技場を発着点に、市の中心部を流れる石狩川の堤防を走るコース。それぞれの体力に合わせた3・5・10キロメートル

### HSTTが走る!!

旭川市内に、リアモーターカー



(磁気浮上式輸送機) HSTTの実用化第1号を実現するため、HSTT推進連絡協議会が発足しました。この協議会には、旭川市はもちろん道、北海道東北開発公庫など五者が参加しています。

### 市民ゲートボール場

旭川市の中心部を流れる石狩川の河川広場に、コート数二十面の「旭川市民ゲートボール場」が昨年九月オープンしました。広さ三八ヘクタール、総工費約七千万円を投じ、軽い運動のできるトリム広場、水飲場、便所などが設置されています。

この大会は、市内の小・中学校でマラソンが盛んなうえ、市が文部省の「豊かな心、たくましい体づくり」のモデル都市に指定されていることから、市内の全小・中学生が参加してもらおうと計画されたものです。

このほか市内には、川の街・旭川にふさわしく、河川敷を利用したテニスコート、野球場、公園などがあり、市民の憩いの場所となっています。豊かな自然の中で、夏はスポーツ、散策に、冬は歩くスキー、冬まつりの会場として旭川の市民にとって川は生活の一部となっています。



石狩川を左に見て元気な中学生

昨年の四月、旭川市の郊外、神居にある優住良織工芸館の隣に、国際染織美術館が開館した。館内をご案内すると、一階の第一展示室には、コプト裂、プレインカ、ダマスカスシルク、シルクロード発掘の唐代の茜染めなどの古裂のほか、シヤム口染めや西洋紅花染め、オランダ銅版更紗などがある。日本のものでは、法隆寺裂、室町期の辻が花、慶長裂、そして紙衣などが展示されている。長い時をへていつそ人を魅了する見事な古裂の数々は、染織の美を堪能させてくれる。

二階の第二室は、染織の源流の一つペルシャを中心とする中近東。第三室はインドから東南アジア、南太平洋、そしてヨーロッパ、アフリカと続く。インドのパトラ、東南アジア諸島のバティックやイカット、雄健なるアフリカの絞や刺繍、それぞれの対比の展開が興味を継続させてくれる。第四室は中国。中国の織裂約百点を江戸時代に六曲屏風に仕立てたものがメインである。中国の工芸の最も盛んだった明、清の綴や繡も精細である。刺繍をする人たちにはよく知られている両面刺繍は、紙のように薄い表と裏とに模様を違えており、この刺繍を見ていると、人間の手技の不思議さ、ひとの手がつくり出す魔術のような冴えに、技の深奥を感じる。第五室は日本沖繩から北海道まで、日本各地にこれほど多くの、これほど独自に変化に富む染織品のあることに改めて驚く。

企画展示室には、児玉コレクションによるアイヌの衣裳を十数点三カ月おきに展示替えをしながら

常陳している。アツシタ、と呼ばれる黒裂置模様、色裂置模様が、妖艶なる繡の世界をつくりあげる。本州からこられる方たちの人気を集めている展示室である。

館内に、日本と世界の染織地図を描いた大きなパネルがある。これがこの美術館の理念ともいえる基本的な考えを表わす。染織文化の独自性とその交流、伝播のあつとをさぐってみたい。その目的にそつての展観を意図しているのである。



木内綾

日本染織界の泰斗、上村六郎博士のコレクションを中心に、各地の代表的な染織品を収蔵することができたのが、五年前のことだった。数多い収蔵品の中から、限られた展示用を選び出す作業に二年近くかかった。

展示に合わせて美術館の建物を設計し、設計図に合わせての展示を工夫した。可能なかぎり、すべてのことを工芸館の職員と美術館のスタッフの手でつくりあげることを早くから決めていた。ディス

プレーの専門家に依頼すれば簡単にできることがわかっていても、彼らはやはり自分たちの手で全部をやりたいがた。多くの美術館を丹念に見学した。それぞれの専門家に多くのことを教えていただいた。

古い染織品の補修も大きな仕事だった。江戸時代の京友禅などは、京都の文化財補修所などに依頼したが、外国のものは、いちいちヨーロッパの専門修理機関に送ることができないので、修復された現物を見本として入手して、徹底的に研究した。工芸館の和裁の上手な年配の女性数人が選ばれた。一年がかりで展示用の補修に間に合ったのだが、最初はおそろおそろの作業も、後半には、付属補修所と内部で呼ばれるまでになった。

経験の浅い、若い職員や学芸員は、そこで学び、実地の場でできたえられた、と思う。未熟とも思えるその発想の中にも、思いがけない斬新な提案がまじっていた。思いつきが最終の形となって実現した時のうれしさはまた格別のものだったろう。

開館には間に合わなかったが、十六世紀のタピスリーの名作「凱旋シリーズ」の中の「女神の凱旋」がベルギー大使館のご好意で好運にも入手できて、収蔵品に加えることができた。美術館ができたことで、思いもしなかった貴重な染織品の情報が集まり、収集が実現できたものもある。

美術館はこれから動いていく。自分たちがつくりあげたものが、どう変わっていくのか、その変わりようをじつと見ていきたい、と思うのである。(優住良織・織元)



郷土史に学ぶ

郷里を離れていればいるだけにふるさとへの愛着は強く、常に念頭にあるといえよう。老生もその一人で古稀を迎え一層その感を深めている。東京旭川会の発足と同時に会員として欣然創立総会に出席したが、その後健康を害し今日に至り、総会並びに郷土訪問旅行にも加わり得ず、専ら会報で躍進旭川の一端を認識しているに過ぎない。

しかし元来郷土との縁は深く職業柄入行時、復員後そしてさらにもう一度、郷里で過し得た。その間、昭和四十五年、旭川開基八十周年に際しての旭川市史の発刊を知り、当時の五十嵐広三市長と同史編集に寄与の北島吉光氏に乞いそのご好意により同市史五、六、七巻の贈呈を受け、経文ではないが、これを真読し、行政面よりの文化教育産業経済その他市政全般にわたつての歴史を知悉し、深い感銘を受けた。

しかして今般たまたま「郷土の歴史に生きる旭川九十年の百人」なる一書を手、人物の面から旭川九十年の歴史を読み、先人の努力と労苦を知り、望郷の念を新たにしたい。さらにまた、ふるさと便の案内に接し、味覚の点から郷愁を深めている次第。現在の凡々老骨の身では故郷に錦を飾る帰山運動もかなわないうところ、せめて余生のある限り、機会を得て帰省し郷土の歴史と先人の功績そして味覚の視点からふるさとを味わいたいと念願している。

(中村猛昭・東京都練馬区小竹町一―一七、元富士銀行旭川支店長)

旭川グルメが欲しい

過日、カナダのバンクーバーを訪れたさいスモーク鮭のソフトを買ってきた。といつても腹の部分だけだ。魚屋の店先まで売っていたのを見て、うまそうだったので手を出したのだ。東京に戻ってきて食べてみると、たしかにうまい。

わが旭川は北歐圏としきりに文化交流をやっているが、このスモーク技術は是非導入して欲しい。鮭クンの産地は、本来鮭と関係のない神戸である。ここで北歐の技術が花を咲かせたという。

グルメ時代のおりから、旭川でもラーメン以外に高級加工食品があつていいのではないのか。

(牛朱別一樹・東京都新宿区・自由業)

▽杉松儀一画伯の作品展Ⅱこのほど東京旭川会会員杉松秀樹氏(旭商十三期卒)の子息儀一画伯の個展が東京都内や近郊のデパート等で開催された。昭和三十年東京生れ。五十六年多摩美大卒、精密につきつめて描くタイプの作家で対象も奈良、京都、富士周辺、北海道の風景など。

▽緑蔭会(北都・旭川市立高女)同窓会東京支部Ⅱ昭和六十二年五月十日(日)受付十一時から。会場は目黒の八芳園(港区白金台一―一一)電〇三(四四三)三一―一、連絡先Ⅱ昭和二十一年度卒業当番・内藤ゆり、〒160新宿区高田馬場三―二十三―一、電〇三(三三六二)八九二四、百瀬美佐子、〒181三鷹市大沢四―一六―三〇、電〇四二二(三三二)七二六九、二田弘子、〒351朝霞市根岸台七―二五―一九、電〇四八四(六五)四八九二



### 中華料理店「開楽」

国電池袋駅東口近くに旭川出身の浅井すみさんがオープンした中華料理店「開楽」。

○メニューの「売りもの」はジャンボ・ギョウザです。お近くに來たら是非お立ち寄り下さい。

◇住所 豊島区南池袋一丁目八一-二三

◇電話 〇三一九八九一八六二三

◇目標 池袋駅東口、西武スポーツ館隣り、森永ラブの地下

### 協賛十一社に感謝状と記念品贈呈

(順不同敬称略)

旭川地方卸売市場株式会社 社長・菅原国次郎  
 男山株式会社 社長・山崎与吉  
 合同酒精株式会社 社長・野口正二郎

## 郷土訪問旅行七月に

参加者募集中

例年、みなさんにご好評を得ております。「郷土訪問旅行」がことしも近づいてきました。今回は特に、東京旭川会創立十周年記念と銘うって左記のようにとり行ないます。大変格安になっています。みなさんぜひご参加下さい。

期日 昭和六十二年七月三十一日  
 (東亜航空二便) 帰京は旭川又は札幌より帰ることが出来ます。(何便か指定があります)  
 費用 三万九〇〇〇円(会員外四〇〇〇〇円) 含まれているも

- サッポロビール株式会社 社長・高桑義高  
 高砂酒造株式会社 社長・小松山亨  
 東亜国内航空株式会社 東京支店長・広瀬俊二  
 株式会社十勝 社長・大浦二郎  
 ニッカウキスキー株式会社 社長・竹鶴威  
 橋詰商店 社長・橋詰綾子  
 藤原製麵株式会社 社長・藤原邦晃  
 雪印乳業株式会社 社長・山本庸一

### 事務局日誌

(60・9・1、61・8・31)

- ▽9・10 第1回幹事会▽9・27 旅行会打合▽10・8 総務部会▽10・14 第4回郷土訪問の旅▽10・30 第2回幹事会▽11・7 第9回総会並懇親会▽11・16 会長に会務報告(役員委嘱関係)▽12・17 会長見舞、役員委嘱決議▽61・2・1 北海道ふるさと会連合会新年交礼会出席▽3・12 レクリエーション部会ゴルフ大会(東名カントリークラブ)▽4・23 第3回幹事会▽4・26 北海道ふるさと会連合会総会出席▽5・28 レクリエーション部会、旅行会について▽7・18 ション部会、旅行会について▽8・6 平岡会長午前九時五十分逝去▽8・14 常任幹事会▽8・20 副会長会議、第2回実行委員会▽8・26 故平岡会長社葬

### 昭和六十年度収支決算

昭和六十一年八月三十一日現在(収入の部)

- 繰入金 六六三、五四八円
- 年会費 五八五、〇〇〇円
- 五十九年度懇親会費 二、四四七、六〇〇円
- 名簿簿上代金 七七、〇〇〇円
- 寄付金 五〇五、〇〇〇円
- 雑収入 二五、九一六円
- 合計 四、三〇四、〇六四円
- (支出の部)
- 懇親会費 二、四〇二、一一〇円
- 印刷費 一、〇七三、九七〇円
- 通信費 一七九、一八〇円
- 会議費 九七、七八〇円
- 交際費 一一五、五〇〇円
- 事務費 三二、一七〇円

ヨン部会、旅行会について▽7・18 第1回実行委員会▽8・5 レクリエーション部会、旅行会について▽8・6 平岡会長午前九時五十分逝去▽8・14 常任幹事会▽8・20 副会長会議、第2回実行委員会▽8・26 故平岡会長社葬

の往復航空運賃、空港より高砂台―旭川ターミナルホテルまでバス代・昼食代等

内容イ 旭川空港到着後観光バスで旭川市内観光し高砂台のレストランに到着、昼食会に参加(当日旭川市長を始め、市会議長、商工会議所会頭、観光協会長出席)

ロ 宿泊は旭川ターミナルホテルを契約しております。シングル五五〇〇円、ツイン五五〇〇円、いずれも朝食、税金込。

ハ 小旅行を下記の通り計画しております。

A 利尻、礼文島二泊三日 二六、〇〇〇円

B 天人峽、他二カ所一泊旅行、料金は未定

C 青少年の会(地元旭川教育委員会が企画しております)。

D ゴルフ会

二 旭川夏祭に参加(第二回) 7・30、8・2、7・31

午後四時三十分商工会議所より旭川駅までパレードがあり、揃いの浴衣に着替え(観光協会にて用意)

▽お悔み	
秋島 勲郎殿(六〇・一一・二四)	一四、〇三〇円
丹藤 信忠殿(六〇・一一)	三〇、〇〇〇円
斎藤 忍随殿(六一・一一・二二)	三、九四四、七五〇円
宮下 博夫殿(六一・三・六)	三五九、三一四円
野中 寿成殿(六一・四・一〇)	四、三〇四、〇六四円
北原 虎男殿(六一・六・一〇)	
下村 健一殿(六一・八・一四)	
平岡 敏男殿(六一・八・六)	
黒川 仁殿(六一・九)	

手数料 一四、〇三〇円  
 雑費 三〇、〇〇〇円  
 支出計 三、九四四、七五〇円  
 繰越金 三五九、三一四円  
 合計 四、三〇四、〇六四円

昭和六十一年八月三十一日  
 以上の会計事項について監査の結果、適正に処理されているものと認めます。  
 昭和六十一年九月二十九日  
 監事 竹原 茂雄 黒崎 弘

### ご寄贈、ご協賛

ありがとうございます

旭川市長、旭川市議会議長、旭川商工会議所会頭、旭川観光協会会長、旭川地方卸売市場、旭川国際パーサーズ大会実行委員長、旭川ターミナルホテル、男山、大城印刷、大森家政専門学校、川田正則、葉日本堂、栗田工業、(株)鴻池組、合同酒精、五建工業、小柳勝人、サッポロビール、昭和ビルド、昭和工業、セーギ、谷トヨ子、高砂酒造、大心堂雷おこし、第一梅屋、東京夕張会会長、東亜国内航空東京支店、東京美装興業、十勝、トヨーホテル、天人閣、ニッカウキスキー、藤原製麵、藤井商事、原建築設計事務所、花輪病院、プロセシアキテクチュア、PMC出版、毎日新聞社、優佳良織工芸館、雪印乳業、京王プラザホテル、伊藤英子、大城栄子、原茂雄、牧田逸子、御手洗正夫、八木村四郎 (順不同敬称略)

### 編集後記

▽平岡前会長に随筆の執筆を依頼するとご多忙の中を旬日を経ずして約束の期日に届けられた。文章は十分推こまを重ねたもので、秀れたエッセイであった。前号の「十年の積みかさね」は病みあがりで書かれたもので、読み返して見ると東京旭川会に残した遺書であったと思う。珠玉のような随筆がなくなったのが淋しい。(M)

▽今号は前会長の平岡敏男さんの追悼特集である。当方で保存しておいた遺稿の由来については別掲の通り。これは当然に遺族か毎日新聞社へ納めるべきだろう。平岡さんの著書によると、毎日新聞社長に就任されたのは同社の経営が悪化してからだったという。にもかかわらず東京旭川会のために実によく面倒をみて下さった。お会いしてお話を伺っていると、人生の余裕もないものを感じさせた。お酒の飲み方も格調高く、東京旭川会の顔”としてうってつけの方であった。

▽新会長の八木祐四郎さんに早速、原稿をお願いした。八木さんはスキー競技でも著名な東京美装興業の経営者である。やる気まんまんとお見受けした。とかく「ふるさと会」は年次やグループが違うと個人的交流が乏しくなる。もともと個人の交流を高めると、東京旭川会の隆盛につながるだろう。若い二代目会長に期待するところが大きい。

▽第十回総会には、毎日新聞秘書課長の久富勝次氏と写真部の中西浩さんに来ていただいた。総会のスナップは中西さんの作品。厚く御礼を申し上げたい。この他、熱心な会員の方々から原稿を寄せていただき感謝にたえない。せっかくなので寄稿下さるのだから、出来る限りマス目の原稿用紙にお願いしたい。何分よろしく。(I)

▽編集委員 南栄二、田村昌士、落合隆明、関口和子、笠木真知、伊藤一男